

繋がりを大切に、新しい時代にトライ

公益社団法人長野県介護福祉士会

会長 鈴木よし子

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナへの不安を抱えながら日々、医療現場、介護現場で緊張と不安と奮闘している皆さんに、心から敬意を表しますとともに、今後も自らの健康に気をつけてより良い介護を提供して下さることを祈念いたします。

さて、今年は大仕事がいくつかありますが、その一つがブロック機能の強化です。災害対応における迅速な安否確認や支援体制の構築に「顔の見える関係づくり」は欠かせません。また、地域包括システムの一角を担うという意味では、地域での介護福祉士の力が必要です。地域での介護と医療の連携、各団体とのつながりを各地域でつくる活動を継続します。

そのためには、リーダー育成が欠かせません。事業所内でのリーダー育成、地域でのリーダー育成を、各研修を通して進めていくとともに、リーダー研修などの、委託事業にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。しかし、人と会うのがままならない今日。研修や会議の形が変わってきました。ネットでのつながりを積極的に行っていく必要があります。感染対策を行いながらも職能団体として、資質向上につながるような研修会の開催、介護の仕事の魅力発信、介護福祉士の社会的評価の向上に努めてまいりたいと思います。

さて、最近のニュースでは、介護職員らの賃金を月額3%（9000円）ほど引き上げる新たな制度の基本デザインも明らかになりました。そして、介護施設の人員配置基準をめぐっては、政府の「規制改革推進会議」で見直しを提起した経緯があります。その中で大手の介護事業者が施設の配置基準を4対1への緩和提案がありました。ICTなどの活用が広まっているとは言え、現場では苦しい運営になります。人材不足が根底にあるとはいえ、現場での介護ロボットの活用の検証もできていません。物の価値より、人の価値に目を向けて欲しいと思います。

そんな中、「公益社団法人日本介護福祉士会臨時総会」がオンラインにて開催されその中で『日本介護福祉士会の会費の見直し（値上げ）』が議案として提出されました。入会するメリットが感じられないとの会員からのアンケート結果があり、日介の活動を見える形で発信し、活動を活性化させていくための機能強化を図るため、日本介護福祉士会事務局に調査研究部門を設置するための準備を進めています。また、研修のために情報発信力を高める機能の、システムの導入や強化等を図っているところです。そのような流れの中で、会費の値上げをお願いすることになります。日本介護福祉士会からの詳しい説明会を長野県介護福祉士会で計画していく予定です。

令和4年度は「新しい時代の始まり」ともいえるのではないのでしょうか。新しいことにトライする年。介護福祉士が繋がり、前を向き続ければ、新しい光が見えてくると願っています。今年度も会員の皆様の意見に耳を傾けながら、私たちが今何をすべきか議論を重ねていこうと考えております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。